

## Ⅱ 連携・交流事業

### 1) 地域交流事業

#### 地域交流事業 1 市役所南庁舎のウィンドウでの衣装作品展示

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 中谷 友机子  
教授 福村 愛美  
准教授 太田 幸一

主 催：岐阜市役所

開催日時：令和2年9月2日（水）～10月31日（土）

会 場：市役所南庁舎・ウィンドウ

生活デザイン学科・ファッション専修の学生衣装作品を市役所南庁舎・ウィンドウにて展示をおこなった。

今年は、「シティ・フェミニン」「クラシカル・ポップ」「ファンタスティック・ドレス」の3テーマを提案し、各2作品ずつ展示をおこなった。

ファッション専修の学生が得意とするギャザーやフレアーなどのディテールを活かしたフェミニンスタイルを中心に選定し、合計6作品の展示となった。

卒業制作作品の展示は、広報も兼ねてとても良い機会となった。

## 地域交流事業2 こよみのよぶね 2020 4月行灯制作と参加

指導教員：生活デザイン学科 准教授 畑中 久美子

主 催：こよみのよぶね 2020 年実行委員会（総合プロデューサー：日比野克彦）

開催日時：令和2年12月21日（月）16：00～21：30

制作期間：令和2年9月28日（月）～12月20日（日）

会 場：長良川右岸プロムナード付近

制作学生数：10名

2006年から続く、一年で一番夜が長い冬至の日に、1～12の数字とその年の干支の行灯を長良川に流すイベント「こよみのよぶね 2020」の4月行灯制作を、「課題研究」の一環で畑中ゼミの1年生が行った。

デザイン案は学生が各自1～2案持参、プレゼンテーションし、ゲストにアーティストの日比野光希子さんを迎えて学内コンペを実施し、決定した。様々なコンセプトとデザイン画が披露されたが、採択された小松さんの案は、「感染症による4月の自粛期間中に自宅に居た際、聞こえてきた鶯の声から連想した」ものである。制作にあたり、形状は小松さんの案に沿って彩色は各学生の案を寄集めたものとした。手を動かしながら考え、その時々判断を下しながら10名の学生が無事に行灯を作り上げた。

イベント当日、学生は他の月の行灯制作チームの方々と行灯を長良川に浮かべ、船に乗り込み、船からしか見ることのできない景色を楽しんだ。

学内での制作、イベントをとおして地域の方々と繋がりを持つ活動となった。



4月行灯制作風景



当日1～12月の行灯が点灯した様子

### 地域交流事業3 柳ヶ瀬ハンドメイドコンテストへの参加

担当者：生活デザイン学科 准教授 中谷 友机子  
教授 福村 愛美  
准教授 太田 幸一

主催：柳ヶ瀬通一丁目商店街振興組合  
後援：岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会  
岐阜県教育委員会  
岐阜市教育委員会  
岐阜商工会議所

開催日時：令和2年11月1日（日）より応募開始（11月29日（日）応募〆切）  
令和2年12月13日（日）審査結果発表会

会場：柳ヶ瀬通一丁目特設ステージ

参加者数：生活デザイン学科1年生FD1年生12名、VD1年生2名

「柳ヶ瀬ハンドメイドコンテスト」は、近年ハンドメイドに力を入れている柳ヶ瀬商店街を元気づけようと企画されたコンテストである。今年が第一回目である。

「スカート部門」と「メンズトップス部門」とで構成されており、本学は「スカート部門」に絞り込み、リメイクやオリジナルスタイルの制作を、学生14名が参加しておこなった。

審査の結果、FD1年生の西川実里さんが『スカート部門審査員特別賞』を受賞、山内もえさんが『スカート部門健闘賞』を受賞した。



(掲載許可済)

## 地域交流事業4 令和2年度 生活デザイン学科 卒業研究・制作展

主 催：生活デザイン学科

開催日時：令和2年12月22日（火）～12月27日（日）

10：00～18：00（最終日は15：00まで）

会 場：みんなの森 ぎふメディアコスモス みんなのギャラリー

来場者数：6日間合計 445名（在大学生含む）

本学での2年間の学びの集大成として、各専修の学生が各々のテーマのもとに研究に取り組み、成果としての論文や作品を展示した。ファッション専修では「ピボットスリーブを使用した女性用ジャケットの制作」や「洗濯時におけるマイクロファイバー排出状況の調査」、建築・インテリア専修では「ほそやの街並み保存・継承計画」や「心の「余白」を生む家具」、ヴィジュアル専修では「コロナ禍を自宅で楽しく過ごすためのキット『おうち女子プロジェクト』の制作」や「活字離れを抑制する為のポスターの提案」など、各専修の特性を活かした成果物が発表されるとともに、専修間を横断した「衣料廃棄問題への意識を高めるイベントスペースの提案」などの成果も発表された。



## 地域交流事業5 令和2年度 生活デザイン学科 卒業研究発表会 (研究発表・ファッションショー)

主 催：生活デザイン学科

開催日時：令和2年12月26日（土）13：30～16：00

会 場：みんなの森 ぎふメディアコスモス みんなのホール

来場者数：10名（在学学生を除く来賓）

卒業研究発表会（研究発表／研究室発表／ファッションショー）を行った。研究発表は5名、研究室発表は8研究室、ファッションショー発表作品は32点であった。なお本年は感染症予防のため、会場への入場は関係者のみとする非公開の形式で実施した。



## 地域交流事業6 『明智光秀』学生考案デザイン制作参加作品展示

担当者：生活デザイン学科 准教授 中谷 友机子  
教授 福村 愛美  
准教授 太田 幸一

主催：岐阜 NHK 放送局、岐阜市ぎふ魅力づくり推進部 大河ドラマ推進課

開催日時：令和3年1月25日（月）～2月14日（日）

会場：岐阜市歴史博物館 大河ドラマ館

展示学生者：FD2年生8名

岐阜 NHK 放送局主催による『明智光秀』学生考案デザイン募集に、FD2年生8名が参加した。「私が明智光秀だったら」と学生達8名が、様々な明智光秀の想いやイメージをデザインに表現し制作した。学生達は戦国時代の文化、当時の色使いや手工芸などを研究し、現代風アレンジした明智光秀のデザインを完成させた。

大河ドラマ『麒麟がくる』の放送と重なり、岐阜市歴史博物館・大河ドラマ館に展示していただける機会となった。学生達8名の明智光秀考案デザインの展示は、本学にとって大変喜ばしいことであり、良い広報となった。



## 7) その他連携・交流事業

### (公益財団) 岐阜市国際交流協会との共催事業

主 催：(公財) 岐阜市国際交流協会

講 師 名：国際文化学科 教授 王 武雲

開催日時：令和3年1月30日(土)

会 場：みんなの森 岐阜メディアコスモス かんがえるスタジオ

受講者数：約19名

令和3年1月30日に(公益財団)岐阜市国際交流協会と外国文化理解講座を共催事業として行った。「中国の青朱白玄～中国の祝祭日の歴史と伝統文化」というテーマで中国での四季折々に祝われる行事について紹介した。青朱白玄とは、中国の五行説の考え方で、東南西北や春夏秋冬を意味する。受講者のアンケートによると、「大変興味深く、また、わかりやすい講座でした」、「中国の祝祭日と日本との違い、祝祭日の楽しそうな様子など、たくさん話題で、90分があっという間でした」など、好評の講座となった。





## 地域交流事業 10

### ぎふし男女共同参画情報誌「織」第18号の企画編集

主 催：公益財団法人 岐阜市教育文化振興事業団 岐阜市女性センター  
期 間：令和2年7月22日（水）～令和3年3月31日（水）  
場 所：ハートフルスクエア-G 2階研修室 又は 岐阜市立女子短期大学  
参加者数：国際文化学科2年生 3名

国際文化学科の2年生3名が、ぎふし男女共同参画情報誌「織」第18号の企画編集を行った。

同情報紙の発行目的は「女系と男系がつぐむ社会ーいごちのよい人間模様の布を織るためにー」であるが、それを受けて第18号では若者の価値観や意識について調べることにし、岐阜県内の各大学で学ぶ学生にアンケートを実施した。アンケート項目は「色」、「情報収集の仕方」、「在宅ワーク」、「家事における男女役割分担」、「女性専用車両」であり、558人から回答を得た。

第18号ではこれらのアンケート結果を報告し、「特集 with コロナ時代～誰もが幸せになるためにできるコト～」という副題で発行した。今回の企画編集は、学生が地域社会で体験的に学べる機会となった。

## 2) 他大学交流事業

### 他大学交流事業1 岐阜大学 柳戸演習林での演習科目 「生活造形演習」の集中講義

指導教員：生活デザイン学科 准教授 畑中 久美子  
岐阜大学 准教授 石田 仁  
教授 河西 栄二

開催日時：令和2年10月6日（火）10：00～14：30  
12月15日（火）10：00～14：30

会 場：岐阜大学 柳戸演習林

受講者数：約23名

平成25年度より本学は、岐阜大学応用生物科学部と大学連携を行い、相互の教員、施設の連携や交流をはかっている。この連携授業の一環として、本学の演習科目「生活造形演習」の集中講義を、岐阜大学柳戸演習林において、2日間かけておこなった。本学の演習の課題は「演習林で採れた木材を使って、誰かのための木のスプーンをつくる」というものである。

1日目午前は、本学と岐阜大学の「森と美術」履修学生の交流促進として、アイスブレイクが行われた。午後は、演習林フィールドワークを、岐阜大学石田仁准教授の引率のもとに実施した。枝葉から杉、檜等の樹種を見分ける方法などを教わった。さらに、より、「林業と木材流通」の講義、技術職員青木氏による「刃物研ぎ、木工の際の心得」の講義を受けた。

2日目午前は、木のスプーンと樹木スケッチの成果物を「森と美術」履修学生とお披露目し合った。午後は教員および技術職員の指導のもと、チェーンソーの体験、チェーンソーで切った木を燃やして、焼き芋、焼きマシュマロなどを行なった。



## 他大学交流事業2 令和2年度 多職種メディカルケアチーム医療教育 (MMeCTE : Multidisciplinary Medical Care Team Education)

担当者：食物栄養学科 専任講師 山田紀子、助手 酒井千恵

主催：岐阜大学医学教育開発研究センター

開催日時：令和2年11月9日（月）9：00～12：00

会場：Wed 開催

受講者数：食物栄養学科2年生47名

実際の医療現場では、チーム医療が必須であり、メディカルケアチーム（多職種連携チーム）をつくり、患者の治療やサポートを行っている。他職種メディカルケアチーム医療教育（MMeCTE : Multidisciplinary Medical Care Team Education）として、平成医療短期大学、岐阜薬科大学、岐阜大学、朝日歯科衛生士専門学校、岐阜市立女子短期大学の学生が、チーム医療を体験するプログラムに参加した。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に対応しWebで開催された。岐阜市長による挨拶からはじまり、看護師、理学療法士、作業療法士、視機能訓練士、薬剤師、医師、歯科衛生士、栄養士をめざす学生が、ある症例を通して、どのような医療支援を提供するか話し合った。脳梗塞・糖尿病や高血圧を患う患者が、発病、入院生活を経て、退院・在宅療養への退院準備カンファレンスを自分達で行うことを最終目標とした。

今回の体験を通して、医療の中での栄養管理の必要性を確認することができ、専門分野を学ぶ学生との交流で、他職種の方の視点を知り、自分たちとは違った見方や考え方を知ることができ、MMeCTEに参加できたことは、栄養士を目指す学生にとって、将来につながるとても良い経験となった。

### 3) 産官学連携事業

#### 産官学連携事業 1 令和2年度 翔工房参加

担当者：生活デザイン学科 教授 福村 愛美、准教授 中谷 友机子  
准教授 太田 幸一、講師 臼井 直之

主催：(公財)一宮地場産業ファッションデザインセンター

開催日時：令和2年6月15日(月)～令和3年2月19日(金)

会場：一宮地場産業ファッションデザインセンター 他 尾州産地

参加者数：1名

翔工房は、愛知県一宮市にある公益財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンターが主催する人材育成事業のひとつで、通算12回目を迎える中で、本学の参加は9回目である。今年度は、コロナ禍の中、書類審査(7月上旬)の結果、13名が選出され事業に参加した。本学では、生活デザイン学科ファッション専修2年の学生3人が応募しその中の1人が選出され、吉田実加が参加することに決まった。

数回の合同ミーティング、各々の匠講師と受講生のテキスタイルに関する打合せを経て素材製作がされ、学生による衣装製作が行われた。最終作品は、令和3年2月17日～19日に開催された、尾州テキスタイルの総合展「THE 尾州」での展示と、ファッションショーがオンラインで発表された。「Shimmering Shine」のテーマで参加した学生は、長良川の水面の揺れと、きらめきを表現したいと考え、見る角度やフレアの揺れによって見え方が変化するテキスタイルを提案し、ジャガード織で表現した。翔工房の匠講師は、濱田良孝氏と水谷仁氏である。



#### 当初のイメージと製作した素材との比較

当初のイメージである長良川の水面の揺れときらめきが表現されたテキスタイルに仕上がりました。製作途中で、もう少し全体の青みが強くなる予定でしたが、絹糸の裏が透

けたため、淡い青色のテキスタイルが出来上がりました。自然の川が生み出す青色に近い色合いになりました。

#### 新たな発見や学んだ点、苦労した点

高質なものづくりは、足し算ではなく、掛け算になることを学びました。1人で決断し、実行に移すことも出来るようになったことが、感謝しながら覚えました。今回は、自分が持つイメージを人と共有して、制約の中で製作を進めていくことで、実際のシミュレーションと実際に撮られた生地に違いがあることに驚きを感じました。

#### 協力企業

心造製(株)・美山織工(株)・川田有織工場(株)・ソート

## 産官学連携事業2 岐阜市役所新庁舎 授乳室の壁画制作

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 奥村 和則  
准教授 小川 直茂  
専任講師 坂本 牧葉  
助手 深尾 茉里

実施期間：令和2年4月1日(水)～令和3年3月11日(木)

参加者数：生活デザイン学科 ヴィジュアル専修 1年生 16名

岐阜市行政部 新庁舎開庁準備課より依頼を受け、岐阜市役所新庁舎1階授乳室および通路空間のペインティングプロジェクト（壁画制作）に取り組んだ。授乳室を利用する方々に対して、①心地よくリラックスできる空間演出を行う ②岐阜市のアイデンティティを視覚的に表現した、岐阜市ならではの授乳室をめざす を基本方針として定め、「岐阜の雄大な山川、そのあたたかな包容」をコンセプトに、岐阜にゆかりのある動植物（アユやリスなど）のイラストレーションを柔らかい色彩で描くデザインプランを提案した。令和3年2月から3月にかけて、ヴィジュアル専修の教員4名と学生16名の制作体制で下描き／彩色作業に取り組み、令和3年3月11日（木）に制作が完了した。なお本プロジェクトは次年度以降も2階・3階授乳室を対象として継続実施する予定である。





制作作業の様子

## 産官学連携事業3 岐阜市保健所地域保健課との連携事業 ～自殺対策啓発のためのキャラクターデザイン

担当者：生活デザイン学科 准教授 小川 直茂  
 実施期間：令和2年4月1日(水)～令和3年3月1日(月)  
 参加者数：生活デザイン学科 ヴィジュアル専修 2年生 25名

昨年度からの継続事業として、岐阜市保健所地域保健課との官学共同体制のもと、若年層の自殺率低下を目指して岐阜市オリジナルの自殺対策啓発キャラクターの実用化に取り組んだ。昨年度に学生が提案した25点のキャラクターデザイン案から優秀作品2点を選定した後、岐阜市保健医療審議会に諮り、手続きを経て採用作品が決定した。採用作品は、令和3年3月から市の関係機関の相談窓口等にて配布される自殺対策啓発カードとカードホルダーに使用されている。

なお、本事業の様子が3月4日付け中日新聞朝刊、および3月6日付け朝日新聞朝刊で取り上げられ、注目を集めた。



岐阜市自殺対策キャラクター  
 「音音(ねね)」と「言(こと)」  
 (デザイン：佐野 陽菜)



啓発カード

## 産官学連携事業 4 CAPIC 企画・ブランド展開

主 催：岐阜刑務所・

岐阜市立女子短期大学生生活デザイン学科メディアデザイン研究室

実施日時：令和2年6月23日（火）～

会 場：岐阜市立女子短期大学演習室

参加者数：13名（学生10名、教員1名、法務技官2名）

刑務所作業製品であるCAPICの企画とブランド展開を、岐阜刑務所法務技官の指導の下、行った。岐阜刑務所の刑務作業は木工・金工・縫製に重点を置き、引き出しや机などの製作をメインとしている。従来とは異なる観点を得るため、学生のアイデアに新規性を求め、本学生生活デザイン学科メディアデザイン研究室へ企画立案を依頼された。参加した学生は岐阜らしさの抽出と、岐阜刑務所の刑務作業の強みを活かした立案、約40点程度を行うとともに、それぞれのカテゴリズとブランド展開をプレゼンテーションにおいて説明した。令和2年度末を目処に、実際に制作できうるか等の検討後、製品化を行う予定である。



## 産官学連携事業5 工場見学 製織・染色仕上工場訪問

担当者：生活デザイン学科 教授 福村 愛美  
准教授 太田 幸一  
准教授 中谷 友机子

主催：岐阜県毛織工業協同組合

後援：(公財)一宮地場産業ファッションデザインセンター、尾州テキスタイルデザイナー協会、日本毛織物等工業組合連合会

開催日時：令和2年10月9日(金)

会場：小笠原株式会社、木玉毛織株式会社(愛知県一宮市)

受講者数：生活デザイン学科1年生12名

岐阜県毛織工業協同組合、羽島市との協定に基づき、生活デザイン学科ファッション専修1年生を対象に、愛知県一宮市の「小笠原株式会社」および「木玉毛織株式会社」見学を実施した。

小笠原株式会社は合成繊維を中心とした織物・ニットなど意匠撚糸の製造を行っている。同社で製造される意匠撚糸は尾州産地のファンシーツイードなどに代表される意匠糸使い織物に多用されている。この見学で意匠撚糸工程の特徴を理解することができた。

また、木玉毛織は毛・綿・合繊などの織編物を製造している。レピア織機や丸編機などで毛織物やカーシート用編地が主力製品であるが、ガラ紡やジョンヘル織機などの旧来の機材を用いた独特な風合いの製品の製造も行っており、織物製造工程と毛織物の特徴について理解を深めることができた。

これらの工場見学により、繊維製品の製造過程を把握させることができた。

## 産官学連携事業6 AWI 西沢智裕氏 2021-22AW 素材トレンドセミナー

担当者：生活デザイン学科 教授 福村 愛美  
准教授 太田 幸一  
准教授 中谷 友机子

主催：岐阜県毛織工業協同組合

後援：(公財)一宮地場産業ファッションデザインセンター、尾州テキスタイルデザイナー協会、日本毛織物等工業組合連合会

開催日時：令和2年10月29日(木)

会場：岐阜毛織会館(テキスタイル・マテリアルセンター)

受講者数：生活デザイン学科1年生12名

The Woolmark Company (ザ・ウールマーク・カンパニー) 商品開発・教育担当・マネージャー 西沢 智裕 氏による「2020年～21年 秋冬テキスタイルトレンドセミナー」を聴講した。豪州ウール業界の基本的なサプライチェーンを中心に、天然繊維・ウールのマーケットや素材の開発動向について解説された。また、2021年～22年秋冬のカラー情報などについても解説があった。学生たちは世界的な環境問題やコロナ以後の新しい生活様式に対するマーケット動向についての最新情報を聴講し、サステナビリティに対する市場の動向を踏まえ、ウールなどの天然素材の可能性を知ることができた。

## 産官学連携事業7 合同ワークショップ 『旧岐阜県庁舎の活用を考える』の開催

- 主催：生活デザイン学科 准教授 畑中 久美子  
岐阜工業高等専門学校 清水隆宏研究室  
司町旧県庁舎保存活用協議会（岐阜県建築士会）
- 開催日時：1回目：11月26日（木）14：00～16：30  
2回目：1月9日（土） 9：00～12：00
- 会場：1回目 んぎふメディアコスモス みんなのホール  
2回目 オンライン
- 参加者数：1回目：18名（本学学生9名＋畑中＋協議会8名）  
2回目：22名（本学学生12名＋畑中、岐阜工業高等専門学校4名＋清水准教授、協議会4名）

この合同ワークショップは、「地域・環境デザイン論」の授業の一環として実施した。

岐阜市における低炭素都市実現を考える中で、中心市街地活性化を具体的な建物を通して考える機会として、このワークショップを位置づけた。

1回目はぎふメディアコスモスで清水准教授による旧県庁舎の解説動画を鑑賞後、旧県庁舎のフィールドワークを行った。解説や図面を頼りに旧県庁舎をひとまわりしつつ、ぎふメディアコスモスと新市庁舎、旧県庁舎の関係、歩行者や車の動線を確認した。

フィールドワークの後、2グループに分かれて一人5枚付箋に旧県庁舎の印象や、活用案を書き出し、それを模造紙に意見を集約し、発表を行った。

2回目のワークショップは、県内での感染者が急増したことから、開催2日前に急遽オンラインに変更となった。オンライン上で本学と岐阜高専の学生たちの案をアップしておき、お互いの作品を見て、良いと思った作品に一人5票の投票をした。各学生のプレゼンテーション、教員、協議会の講評を経て閉会した。学生たちの提案が大変自由で様々な角度からのケーススタディとなっていること、これからのまちを担う学生たちから多様で前向きな提案がなされたことは岐阜のまちにとって大きな出来事であることから、ワークショップの内容をまとめ、冊子化した。



フィールドワークの様子



## 産官学連携事業8 工場見学 ウール講座 布の仕上げ加工と風合い

担当者：生活デザイン学科 教授 福村 愛美  
准教授 太田 幸一  
准教授 中谷 友机子

開催日時：令和2年11月30日（月）

会場：テキスタイル・マテリアルセンター（岐阜県羽島市）

受講者数：生活デザイン学科1年生12名

布の仕上げと風合い・質感についてテキスタイルデザイナー2名から講義を受けた。講師は、(有)カナーレ社長 足立聖氏と(株)イワゼン社長 岩田善之氏である。足立氏からは、さまざまなテキスタイル素材を示しながら、デザインコンセプトや、そのコンセプトを実現するための製織・仕上げ方法についての講義があった。テキスタイルについては過去の各種ブランドにおける商品化や、映像メディアとのコラボレーション事例、若手デザイナーのアイディアをいかに具現化するかなどの実例が紹介された。学生は、高い商品であるほど、良質でこだわりを持って手間暇をかけて作っているということを知ることができ、テキスタイルの魅力に触れることができた。

岩田氏からは、産地で織られている織物に使われている糸のサンプル、ジャカード織を織るための紋紙などを見せていただいた後、これまでに手がけてきたテキスタイルの紹介とともに、糸や組織による織物の組み合わせで表現される表面効果や、ブランドやデザイナーからの依頼によるテキスタイルデザインの実例について講義があった。学生はデザインのポイントなどを知ることができ、テキスタイルデザインの可能性を感じ取ることができた。

## 産官学連携事業9 アクティブG「健康メニューフェア」

担当者：食物栄養学科 専任講師 長屋 郁子、助手 酒井 千恵

主催：アクティブG

開催日時：令和3年1月2日（土）～2月7日（日）

会場：アクティブG（2F 飲食店8店舗及び1F 駅市場 DODA-GIFU）

参加者数：食物栄養学科2年生 57名

本事業は、JR 岐阜駅に隣接した複合商業施設「アクティブG」が、年間を通して様々な企画・運営をしているフェアの一つであり、岐阜市健康増進課の食環境整備事業の一環として実施した。フェアで提供する健康メニューは、「栄養バランス」、「野菜たっぷり」、「減塩」、「岐阜らしさ」、「正月らしい華やかさ」をコンセプトにアクティブGの各店舗と、本学食物栄養学科2年生が相談して決定した。学生たちは栄養価計算を担当し、それをもとに栄養面からの提案や、消費者の視点からアイデアを出し合った。また、店舗側が試作した料理の試食も行い、より魅力のあるメニューになるよう検討を重ねた。さらに店舗で提供する健康メニューをいかし、自宅でも簡単に作れる「アレンジレシピ」を考案し、作り方や栄養価などを掲載したレシピカードを、アクティブG1階の駅市場 DODA-GIFUにて消費者に配布した。

フェア開催期間が新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言と重なり、集客等に影響があったものの、参加した学生からは、「実際に商品となるメニューに携わる機会は初めてだったので、とてもやりがいを感じた。」「打ち合わせでは、店主の熱意やこだわりを感じた。自分も自信をもって積極的に意見を伝えるには、日頃の学びが大切だと改めて思った。」「フェア期間に通学時に立ち寄ってみた際、考案したメニューが並び、レシピカードを手にとってくださる方がいることに感動した。」などの感想があり、地域との交流の中で多くの学びがみられた。





## 4) 高大連携事業

### 高大連携事業 1 「中国文化論」

主 催：国際文化学科

開催日時：令和2年4月6日～8月10日（月曜日）14:40～16:10

（隔週月曜日 14:40～16:10 合計7回）

会 場：岐阜市立女子短期大学

受講者数：72名（国際文化学科1年生55名、岐阜市立岐阜商業高等学校17名）

この講義は、中国の少数民族、食文化、茶文化、大衆文化などの側面から中国を観察し、中国の文化に触れてもらうことが目的としている。中国には漢民族以外に55の少数民族があり、それぞれの民族は独自の文化や習慣をもっている。中国における少数民族の社会や文化を考察しながら、中国社会の多様性を概観した。

この科目は、岐阜市立岐阜商業高等学校の連携授業で、同校から17名の生徒が教員1名の引率で岐阜市立女子短期大学へ来学し、国際文化学科1年生と共に受講した。最終回の授業アンケートによると、授業の雰囲気について「高校生と一緒に授業を受けるのがとてもいい経験です。」「大学生側は刺激をもらえたように思います。」という意見は圧倒的であった。一方、高校生たちから、「大学生からいい刺激をうけて、励みになりました」など、高大連携授業に対して、双方から高い評価が得られた。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で、例年より教室での交流が少なかったことでとても残念だ。今後学生同士がもっと交流できるよう、工夫する必要がある。

## 高大連携事業2 情報モラルに関する研究および啓発メディアの制作

主 催：岐阜県立岐南工業高校・岐阜県警・秋田大学

岐阜市立女子短期大学生活デザイン学科メディアデザイン研究室

実施日時：令和2年6月24日（水）～

会 場：岐阜市立女子短期大学演習室、岐阜県教育委員会会議室

参加者数：約22名（本学学生10名、本学教員1名、岐南工業高校生徒5名、  
岐南工業高校教員2名、岐阜県警3名、秋田大学教員2名）

コロナ禍において、子どもが1人でネットワークを使用するケースが増加した。その際、PC/タブレット/スマートフォンを使用するが、操作方法や情報の受信/発信方法など、ネットワークに関するモラルやマナーに関する知識がないまま使用している事が多い。その状況を改善すべく、情報モラルを向上させるべく方法を検討し、それによる啓発を行うことを目指した。オンライン/オフラインともに使用できるカルタをイメージして制作にあたり、岐南工業高校の生徒が読み札を、本学学生が絵札を担当し、意見交換を行った。最終案を岐阜県教育委員会へ提示し、ヒアリングを行った。令和2年度末にプロトタイプを完成させ、使用感等の検証を行う予定である。



オンラインミーティング風景

## 5) 出張講座

### 「英語音声学入門」模擬授業

主 催：株式会社さんぽう

開催日時：令和2年10月22日（木） 13：30～15：30

会 場：岐阜県立本巣松陽高等学校

受講者数：27名

令和2年10月22日（木）に岐阜県立本巣松陽高等学校で、「英語音声学入門」の模擬授業を行った。日本語と英語の発音は大きく異なっているため、英語の発音に苦手意識を持っている高校生や、もっと英語の発音がうまくなりたいと思っている高校生は多い。英語由来のカタカナ語を多く目にする現代だが、発音面では支障になることも多く、日本語の発音で代用すると、円滑なコミュニケーションを図ることが難しくなる。日本語と英語の発音がどの程度違っているかということ、例えば、日本語の母音は5種類であるのに対し、英語の母音は14種類にもものぼる。ただし、母音の音色を決めるのは、舌のどの部分が、どのくらい持ち上がって、唇の形はどうなっているかの3点だけのため、発音の仕組みを学べば、単に耳で聞いて口で真似より、より簡単に英語らしい発音ができるようになる。通常、発音できない音は聞き取りも難しいと言われるため、より良い発音を声に出して練習することは、リスニングの向上にも効果があると考えられる。

本模擬授業では、英語の母音や子音について、どの調音点をどのように使って発音したらいいのか口の中のイラストを使い、実際に発音練習をして学び、英語の早口言葉に挑戦した。50分の授業を2回行い、合計27名の1年生と2年生が参加してくれた。参加者は英語の早口言葉に意欲的に緒戦し、発表してもらおうと拍手が起こるなど、楽しい模擬授業になった。巣松陽高等学校の英語教諭も参加され、英語音声学の奥深さを感じていただいた。

## 6) その他連携事業・交流事業

### その他連携事業・交流事業 1

#### 中国語合同発表会

主 催：国際文化学科

開催日時：令和3年2月1日（月）13：00～14：30

会 場：岐阜市立女子短期大学

受講者数：45名（国際文化学科1年Aクラス28名、岐阜市立岐阜商業高等学校17名）

令和3年2月1日に岐阜市立女子短期大学国際文化学科1年Aクラスの学生が、履修科目「初級中国語Ⅱ」で、岐阜市立岐阜商業高等学校の生徒と中国語の合同発表会を行った。発表内容は事前に大学生と高校生に知らせ、暗記してもらった。発表時間は一人2分以内で、高校生も大学生も発表を積極的に準備し熱心に聞いていた。お互いにより刺激を与え合った合同発表会になり、今後も継続してほしいという声が多かった。

## その他連携・交流事業 2

### 岐阜市女性センター主催公開講座 文学界のレジェンド性と人種のマイノリティ作家から学ぶ 心のつながり

講師名：国際文化学科 専任講師 柳楽 有里  
開催日時：令和3年2月21日（日）13：30～15：00  
会場：ハートフルスクエアG 2階 大研修室  
受講者数：約26名

アメリカにおける性と人種の構造は複雑かつ根深いものである。アフリカ系アメリカ人作家のフレデリック・ダグラスとジェームズ・ボールドウィンは、時代は異なるもののそれぞれの方法で苦境の中果敢に社会の流れを変えようと立ち上がった作家のひとりといえる。本講座では、ダグラスの自伝とボールドウィンの戯曲を取り上げ、作品における文学的技法と、そこから読み取れる作家たちの思いを紹介した。

ダグラスにおいては、自伝を出版するという行為が、黒人奴隷として生まれながらも白人と同様の知性を持つことを証明するという政治的なメッセージとなっていることを明らかにした。また、作品における文学的レトリックを紹介し、自伝においていかに当時の社会に抵抗を示したかについて概観した。ボールドウィンについては、未刊行の戯曲の一部を紹介し、語るに語れない真実をкаろうじて語ろうとする登場人物たちを描く際の彼の手法を探った。

## その他連携・交流事業3 生活デザイン学科特別講義

### 鈴木マサル特別講義「鈴木マサルのテキスタイル -色と柄で環境を変える-

講師名：鈴木 マサル（テキスタイルデザイナー，東京造形大学教授）

開催日時：令和2年9月25日（金） 16：20～17：50

会場：岐阜市立女子短期大学 大講義室（1-501）およびオンライン

受講者数：生活デザイン学科1年生62名、2年生70名

テキスタイルデザイナー・東京造形大学教授の鈴木マサル氏を講師に迎え、生活デザイン学科の学生を対象に特別講義を開催した。テキスタイルデザインはファッション専修、建築・インテリア専修、ヴィジュアル専修、いずれの専門とも関連性が深い。鈴木氏のテキスタイルがファッション、空間、広告、プロダクトなどに展開される事例が紹介され、造形表現が空間を演出したり、ユーザの心理を刺激したりすることを実感できた。感染症対策のため、対面とオンラインを併用して開催し、講師はオンラインで講義を行った。初めての試みだったが、質疑にも積極的な参加が見られ充実した時間となった。

## その他連携・交流事業 4

### 大野秀俊特別講義「現代日本の都市と文化 -コスプレ化する建築と風景-」

講師名：大野 秀俊（建築家・都市構想家、博士（工学）、アプルデザインワークショップ代表、東京藝術大学客員教授、東京大学名誉教授）

開催日時：令和2年10月19日（火） 16：20～17：50

会場：岐阜市立女子短期大学 大講義室（1-501）

受講者数：学生106名

岐阜市出身の建築家・都市構想家の大野秀俊先生をお招きして特別講義「現代日本の都市と文化 -コスプレ化する建築と風景-」を開催した。

内容は大きく5つに分けて解説された。

1. 洋服と和服
2. 明治の街並み
3. 1970年代で日本の都市は大きく変わる
4. 世界中の都市がコスプレ化している
5. なぜ保存とリノベーションが大事なのか

生活デザイン学科のどの専修の学生も共通する文化論的な内容であったため、質疑応答の際には建築・インテリア専修の学生のみならず、ファッション専修の学生からも質問が上がった。後日、この質疑応答に対する補足説明として「個性と模倣について」文面が本学学生に送られた。

